



今年からイチゴ栽培を始める長谷川豊さん。宇川農産さんからの紹介だ。現在28歳。出逢った瞬間、前向きで、力強いインパクトを感じることができた。玄関には、大きな声で吼える犬が一匹。長谷川さんは、僕たちに気を遣い、犬が吼えないように丁寧に犬に語りかけていた。「ごめんね。ちよっと我慢してて。」



越中いちご屋 長谷川 豊

No.91

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人とのつながり」で紹介していきます。



保護犬だそう。長谷川さんの心配りと命への優しさが伝わる。玄関先には大きな木。その枝の分かれ目にタンポポが咲いていた。



「イチゴ栽培は僕が始めました。親は田んぼはしていますが、兼業農家です。」

土耕栽培で、大型ハウスが4棟。丁寧に力強く語る長谷川さん。「ビルハウスは父親と友人とで組立しました。いろんな疑問が湧いてくる。なぜこの若さで就農したのか。なぜイチゴなのか？その答えはともシンプルだった。「ある時、自分は体を動かすことが好きなんだと、気づきました。そして、もともと農業に興味があったので、就農することに決めました。」

自分がワクワクすることに素直に行動した。「そしてイチゴとトマトが大好きだったんで、どちらかを作ろうと。それで考えたのがインターネット検索です。」

「イチゴとトマト 農業研修」で検索して、最初にできたものを作ろう。そしてそれがイチゴでした。「自分の心にも素直。大好きだから作る。それ以外何もない。」

「人生は、暇つぶしだと思っています。」

「学生だった頃、人間が作りだした組織だったり、お金のことだったり、みんな悩んで楽しいことをやってないなと感じることがあった。」



そして、1年間栃木県で農業研修を行い、今年からイチゴ栽培を始めた。

取材した時期は、イチゴの苗を育てるために花を摘んでいるところだった。就農して初めてのイチゴの収穫は、来年の1月から2月頃になる予定。長谷川さんは、どんなところに自分が育てたイチゴを販売していくか、今いろんなアイデアが湧き上がっている。

「今からワクワクしています。」

「もし売れ残ったとしても、イチゴは食べます。毎日でも食べます。だって、自分が好きだから作ってるんで。大好きな美味しいイチゴを沢山食べられるって最高じゃないですか。」

出逢った瞬間から、一切変わらない長谷川さんの印象。元氣、力強さ、素直。



いちごが大好きで  
いちご農家になりました！  
**越中いちご屋**  
〒932-0102  
富山県小矢部市水島502  
TEL：080-6678-0015



「その時に、人生なんて暇つぶしなんだからと思えば、生きることがもっと自由になれるんじゃないかな。」

「自分が楽しいと感じることに素直に行動すればいい。辛い時でも、『これは暇つぶしなんだから』と思えば、気楽になれるんじゃないかと思う。」

長谷川さんは、イチゴ栽培を通じてやりたい将来の夢をすでにたくさん持っている。

「顔出しNGですよ。この場所に来て、初めてぼくと出あって、会話をしたいなと思ってるんで。」

プレゼント



小矢部生まれのイチゴをぜひ！  
初出荷のイチゴ1箱(2パック入り)  
3名様

募集期間：平成24年7月30日(月)まで  
フェイスブックページのキャンペーンイベントに参加する、または「いいね！」ボタンを押すだけで応募できます。  
[facebook.com/ELABO.LiTaOyabe](https://www.facebook.com/ELABO.LiTaOyabe)

初出荷のイチゴの味！  
最高なんだろうな。



しげるの一言